

[報告]大船渡市洞雲寺内の明治三陸津波[1896・6・15]の犠牲者を弔う 『丙申大海嘯溺死者諸精霊等』に就いて

岩手県大船渡市綾里 山下 文 男

岩手県大船渡市盛町にある曹洞宗・洞雲寺の本堂内に、2万2000人も命をひとのみにした明治29(1896)年6月15日、旧暦5月5日の、いわゆる「明治三陸大津波」の際、当時の岩手県気仙郡内の沿岸各町村で溺死した人々の霊を弔う、幅1.45m、高さ2.7mもの大位牌が安置されている。位牌正面の、真ん中に位置する「丙申大海嘯溺死者諸精霊等」(ひのえさるだいかいしょうできししゃしょうりょうとう)という大きな文字のまわりには、その夜たまたま被害町村に滞在していて受難した地域外の人々をふくむ溺死者の俗名が、村別、さらには誰々外〇名として世帯別に、滞在者は出身地ごとに、黒地に赤い漆による文字で丹念に書きつめられている。こうした大位牌の存在は知るかぎり国内で例がなく、文化財としてこれ自体がきわめて貴重なものといえる。

§ 1. 岩手県気仙郡内の溺死者数

当時の岩手県気仙郡役所管内の町村は、高田町、気仙村、竹駒村、矢作村、横田村、広田村、米崎村、小友村〔以上、現陸前高田市〕、末崎村、大船渡村、盛町、赤崎村、猪川村、立根村、日頃市村、綾里村、越喜来村、吉浜村〔以上、現大船渡市〕、世田米村、下有住村、上有住村〔以上、現住田町〕、唐丹村〔現釜石市〕の22カ町村であった。

『大船渡災害史』(P 389～395)によると、大位牌に記載されている郡下、被害村別溺死者の内訳は次のようになっている。

	死亡戸数(戸)	死者数(名)
越喜来村	150	248
大船渡村	58	121
唐丹村	375	1744
赤崎村	172	474
綾里村	296	1344
広田村	164	507
気仙村	30	47
米崎村	7	57
末崎村	207	708
吉浜村	36	189
小友村	61	209
(計)	1556	5648

他に、高田9、盛2、立根6、日頃市4、猪川5、有住2、竹駒1、盛岡1、稗貫郡2、他県人1の俗名も含まれる。

なお、ここに刻まれている死者数は、岩手県による気仙郡内での最終的な死者数、5676人とも、洞雲

寺門前の『大海嘯記念碑』にある「沿岸12町村の——溺死せるもの5670余人」ともほぼ合致するが、個々の町村で見ると、一致しないものも少なくない。例えば、綾里村は、ここでは1344名となっており、旧綾里村所在「長林寺」の過去帳による1350名とはほぼ合致するが、岩手県の調査による1269人とは約70人からの違いがある。これらは、死者数があまりにも多かったことと、後に記すような当時の混乱した状態の反映と見るべきだろう。百数十年も後々の世の阪神淡路大震災(1995年)の死者数が12年も経ってから訂正されていることを思えば、災害規模のその大きさから想像して無理からぬことといえる。

§ 2. 大位牌の由緒

2.1 明治三陸大津波と被害の概況

当、大位牌の由緒を語るためには、まず明治三陸人津波について述べる必要がある。

明治29年の三陸津波が沿岸各地に襲来したのは前述の通り6月15日の夜8時頃(宮古測候所の記録によると7時58分に最初の退き潮、8時7分に4～5mの第1波)のことで、以後、津波は6～7分から10～15分間隔でほぼ6度の押し退きを繰り返している。そのうち最も規模の大きかったのは第2波で、第3波以後、津波はしだいに減退して行った。要するに第1波から第3波までの間は約1時間。そのわずか1時間ほどの、あっという間に、1万人以上の家屋が流失全半壊し、合わせて約2万2000(北海道6、青森343、岩手1万8158、宮城3452)もの命が奪われたことになる。

なお、この津波は、後のチリ津波(1960年)を逆にしたような形でハワイやアメリカ大陸のカリフォ

ルニア沿岸にまで達している。

実はこの時、最大の被災県である岩手県庁は、管内の沿岸各地でこうした大惨事が起こっていることを全く知らないまま夜をすごしていた。

県庁の所在地である盛岡などの内陸部と沿岸部との間が、北上山系の山々と、仙人峠とか九十九曲がりなどという険しい峠によってさえぎられているのに加えて、沿岸各地の被害があまりにも突発的、壊滅的で、村役場や警察署、派出所の流失、議員や吏員、警察官らの死亡も数多く、機能が完全にマヒしていて、県庁に連絡するための人手も時間の余裕も全くなかった。そのため、ちょっと信じがたいことだが、岩手県庁が、沿岸地帯での津波の事実を知ったのは、津波後、10時間をすぎた翌朝、午前6時に寄せられた青森県庁からの急電であった。管下の沿岸各地から直接岩手県庁に届いた第1報は約20時間後の翌16日午後4時20分に入った遠野発による釜石の罹災に関する通報、気仙地方からの報告などはさらに後れて17日の午前9時40分発によるもので「今朝、盛町（現大船渡市）海嘯の為、人畜の死傷無数」というものであった。したがって、海岸続きで県庁と連絡可能な宮城県や青森県の被災地と比べて救援活動の出足は大はばに後れた。

それでも県では、青森県からの急電後、直ちに職員の非常招集を行い、派遣する人夫や医師、看護婦の雇い入れ、現地に送るべき食料の買い付けなどの応急措置にのり出すほか、県や警察の幹部、引き続いて巡査や職員を派遣するなど、懸命に努力したが、いかにせん、被災地の地の利の悪さは、後々まで尾を引き、救援活動は困難をきわめた。

ちなみに当時の岩手県知事は、服部一三という山口藩の出身で、アメリカ留学の後、日本地震学会の初代会長や東京大学の副総理などを務めたこともある元々は科学者で、その後、官界に転じて岩手県知事に就任、偶然にもこの史上まれにみる大津波の後始末と廢墟からの復興を指揮するめぐり合わせになった学者知事であった。

2.2 5千人以上が溺死した岩手県気仙郡の惨状

その服部知事が津波の9日後、すなわち6月24日に、中央政府の板垣退助内務大臣に宛てた報告書には気仙地方各村の被害がつぎのように綴られている。

「広田村六カ浦と称する所の如きは、水面より高さこと五丈余の所にある民家を砕き、激波の為、数丈

の高き山頂に船を打揚げ、巡査駐在所は流失し、駐在巡査は重傷を負い、家族は皆流亡せり。末崎村に於ては巡査駐在所流失、駐在巡査重傷を負い、家族六名皆死亡せり。大船渡村の如きは沿海一八丁余間の電柱ことごとく折れ、小友村は浸田害八〇余丁に渉れり。綾里村の如きは死者は頭脳を砕き或は手を抜き足を折り実に名状す可らず。村役場は村長一名を残すのみ、尋常小学校駐在所皆流失して片影を止めず、駐在巡査は家族と共に死亡せり。越喜來村は巡査駐在所流失し、駐在巡査家族と共に死亡せり。而して尋常小学校も流失したれども、訓導佐藤陣は妻子の死を顧みず辛ふじて御真影を安全の地に奉還せり。唐丹村は郡内第一の被災地にして巡査駐在所流失し駐在巡査家族と共に死亡し二八〇〇余の人口にして死亡二五〇〇を出したるは実に悲惨の至りなり……」

中央政府の緊急援助を要請するためとあつてか、駐在巡査の罹災状況や天皇に対する教師の忠誠心に重きをおいた報告になっており、唐丹村の死者数など、事態がまだ十分に把握されていないことを伺わせる面もあるが、それにしても、気仙郡内の被害が凄まじいものであること物語っている。

こうした中で、村々の生き残った人々と、救援に駆けつけた人々の最大の問題は目を覆うような溺死体の処理であった。

例えば唐丹村の本郷では873人中、769人が死亡して、生き残ったのはわずか104人にすぎなかったし、綾里村の石浜では187人中、146人が死亡して、41人しか生き残らなかった。したがって、生き残った者だけで死体を処理するなどは、到底、不可能であった。しかも、季節はむし暑い梅雨時のことである。

『盛警察署誌』も「巡査の救護状況」として、その酸鼻をつぎのように記述している。

「尤も困難ヲ感ジタルモノハ人畜屍体ノ処分ニテアリタリキ。免災者は老幼男女ニ限ラズ親戚故旧ニ集り行動シテ各自ノ経営ヲ為ス場合ニ当テ強制シテ出夫セシムルニ術ナク、天ニ働シ地ニ哭シテ恰モ狂人の如き罹災者ニ之ガ処置ヲ為サシムルコト悞ビザル所ナリ。一刻ヲ経過セバ臭気当タルベカラザル季節、衛生上寸秒モ忽清ニ付シ去ルコト能ハズ、於是平人夫ノ供給一刻ヲ通過スル毎ニ益々其必要ヲ感ジ苦心焦慮至リテ止ミナク巡査ヲ各町村ニ派シ、人夫募集ノ事ヲ可ラシメ、従テ使役シ僅カニ死体取片付等ノ緒ニ付キタリト雖モ〇〇以テ万分ノ一ヲ全クスル能

ハズ………」

「死体ノ検視ニ就テハ重要ナルモノヲ除クノ外ハ、細カニ之ガ調査ヲ為シ成規ノ手続ヲ履行スルノ余裕ナク、親族故旧ナク、引取人ナキモノハ町村長ニ引渡シ、仮埋葬或ハ火葬適宜ノ処置ヲ為サシメタリ」

別に「明治 29 年海嘯誌」に収録されている気仙郡長・板垣政徳の談話によると、他の郡に行って死体処理のための人夫を雇入れようとしても、養蚕の最中であるため思うように人が集まらず、仕方なく、郡役所所在地である盛町の男女を駆り立て、学校教員にまで死体の運搬に当たらせたとある。

こうして、検視を行い、埋葬や火葬のとり運びをした上で親族故旧に引き渡された数は、男 617 人、女 874 人、また引取人なきものは、男 438 人、女 507 人、合計 2436 人にもなったと記している。

但し、この数字は、警察やその人夫などによって処理された死体の数で、親戚故旧などが直接処理した数は含まれていないし、退き波で海にさらわれて行ったまま遺体の揚がらなかった死者の数もふくまれていない。

それらをふくむ全体数であるが、津波の 1 周年に当たって岩手県庁から内務省宛てに提出された報告書にはつぎのように記されている。

〔明治三陸津波に於ける岩手県での死体処理の内訳〕

群名	死者総数	死体発見数 (%)	火葬数	埋葬数	死体不明数 (%)
上閉伊	5393	2200 (41)	403	1797	3193 (59)
下閉伊	6088	3736 (61)	2281	1455	2352 (39)
九戸	1001	806 (81)	213	593	195 (19)
気仙	5676	3478 (61)	2490	988	2198 (39)
合計	18158	10220 (56)	5387	4833	7938 (44)

(岩手県より内務省宛 (1897・6・15)「海嘯始末ニ付申報」)

これを要するに、気仙郡では死者 5676 人中、死体

の発見されたのは、その 61%に当たる 3478 人で、残る 2198 人は遺体が揚がらなかった。また発見された 3478 人中、火葬に付されたのは 2490 人、埋葬されたのは 988 人となっている。

2.3 郡内の重症者を収容した洞雲寺の臨時病院

死者数よりははるかに少なかったが、重傷を負った者や、泥水のような海水を飲んでしまったことなどによる重病人も続出した。急きょ派遣されて来た赤十字や帝国大学の医師と看護婦、陸海軍の軍医と看護卒、東京などから駆けつけた特志看護婦等々の他、県庁の手配によって集められた内陸部の医師たちが主としてその治療に当たった。

まず被災各村＝小友、大船渡、赤崎、綾里、越喜来、唐丹に仮の臨時救護所や仮病院が設けられた。気仙郡中、最大の被害地であった唐丹村では、医師・鈴木琢治が、津波の夜から自宅を提供するなどして献身的な治療に当たったし、唐丹村につぐ大きな惨害を被った綾里村では、小石浜の佐々木善次宅の外、野形の長林寺に仮病院が設置され、近隣の医師たちを誘って駆けつけた岩谷堂町（現奥州市）の医師であり県会議員でもあった及川栄らが 40 日にもわたって懸命な奉仕治療を行った。

村々における救護所の設置に続いて気仙郡役所の所在地である盛町の高等小学校と洞雲寺の本堂に、郡役所が管轄する臨時の病院が設置された。そのうえで村々の救護所は漸次閉鎖して患者を盛町に移送、最終的には洞雲寺の臨時病院に、残る重症者や重病人を収容して赤十字や陸軍から派遣されて来た医師や看護婦たちが治療に当たった。

洞雲寺が臨時病院にあてられたのは、宗派と関係なく、郡役所から近いという、本堂が比較的に広がったためと思うが、当時の洞雲寺住職・千葉文山は、災害の夜から各家を経巡して米 3 石ほどを自費で買い求めて罹災者に送ったりもしており、あるいは自ら提供を申し出たのかもしれない。

記録（三陸大海嘯岩手県沿岸被害調査表）によると、明治三陸津波による岩手県での重傷者数は、全部で 603 人。中、気仙郡は 180 人でその内訳は、末崎村 26、赤崎村 36、大船渡村 4、気仙村 8、広田村 11、米崎村 4、高田町 0、小友村 13、綾里村 24、越喜来村 9、吉浜村 10、唐丹村 35 人となっている。

死者数に比して意外と少ないが、これ自体、津波災害の特徴の一つを物語っている。

すなわち、津波では、濁流にさらわれて溺死する

か、それとも逃げきって助かるかの、大概是二つに一つであって、その中間、すなわち、さらわれはしたが助かったという事例は非常に少ない。津波のパワーがいかに強烈であるかをしめすもので、明治三陸津波は特にそうであった。しかし、だからといって、各村の救護所や洞雲寺に設けられた郡の臨時病院で手当てを受けた人たちも、そこそこの少数だったと推測すべきではない。実際にも、例えば綾里村の救護所では、津波の8日後の23日までに109人の重傷者を治療したと記録されているし、そうでなくとも、治療のおかげで命を永らえることができた人たちの反面では、懸命の治療にもかかわらず、遂には死に至った怪我人や、重病人もかなりの数に上ったものと考えられる。その人たちは結局「重傷者」ではなく「溺死者」として数えられたであろう。

盛町の洞雲寺に設けられた郡の臨時病院でも同様で、運び込まれたかなりの数の怪我人や重病人が快方に向かう反面では、かなりの患者たちが、その効もなく死亡したかも知れない。その人たちにとって洞雲寺は、最期の場所になったわけである。したがってこの場所に津波による全犠牲者の霊を弔うための気仙郡としての記念碑が建立されたのは、ごく自然のことであった。

それが、洞雲寺の門前にある『大海嘯記念碑』であり、各方面から寄付を募って、仏教でいう七回忌の年、すなわち、明治35年6月15日に建立されたものであることは、津波当時の気仙郡郡長であった板垣正徳の撰文と裏面の記録によって早くから明らかにされていた。しかし、冒頭に記した洞雲寺本堂内に安置されている大位牌「丙申大海嘯溺死者諸精霊等」は、その災害文化財としての価値は、同様、早くから認められていたが、これが、誰によってどういう事情で建立されたものかは明らかでなかった。大位牌の移動がむずかしくて裏面にあるはずの由緒書きを調べることができなかったからである。

2.4 「発起者」は小松駒治郎と小松音治郎

平成20(2008)年1月10日、洞雲寺の現住職・清水瑞邦師の立ち合いの下に行われた郷土史家・平山憲治氏と大船渡古文書之会(千葉敏郎会長)の会員諸氏による調査で、今回初めてそれが明らかになった。要するに、七回忌に当たって『大海嘯記念碑』を建立する際、同時に、犠牲になった御霊の冥福を祈り、小松駒治郎と小松音三郎という二人の人物が発起して建造したものであった。裏面にはつぎのよ

うに記されている。

「明治三十有五年六月十五日大海嘯七年回 此年記念碑ヲ建立シ此霊碑ヲ造リ大吊(弔)祭執リ行フ 発起者 小松駒治郎 小松音三郎」

まず、2人の発起者についてであるが、ともに広田村小松家の一族で「小松駒治郎」は、その当主で津波当時の広田村村長、「小松音三郎」は気仙郡会議員だった人である。

小松駒治郎は水産業者で、地元では「潮流翁」なども呼ばれたようであるが、明治三陸津波の原因は、三陸沖で暖流と寒流とが衝突したためであるという、いわゆる「潮流衝突説」を唱えた人物として、当時、草創期の地震学界でも知られた存在であった。

さらに小松駒治郎に関して津波当時の郡長であった板垣正徳は、『大海嘯記念碑』の撰文の中で、この記念碑そのものが、当時の広田村村長であった小松駒治郎の発案と尽力によって建立されたものであると要旨つぎのように記している。

ある日「ぬし予が家を訪れ」今年は亡くなった仏たちの七回忌に当たるので記念の一大碑を建てることを思い立ち、現郡長の賛同も得た。当時、職を同じくした人々や各町村の町村長や有志とも協議、水難救済会の副会長(鍋島直大)からは「あれ狂う津波の中の叫び声今も聞ゆる心地こそすれ」という歌も寄せられた。記念碑にはこれも彫りつけたい。それで、当時の郡長として是非とも貴方(板垣正徳)に記念碑の撰文を頼みたいと言って来た。然し私は、それは学者の仕事であって、自分ごとき「よきすべきことにあらざればとて」固く辞退したが、彼(小松駒治郎)の言うには「学者の文或は俗に読み難く、解し難ければ、金石に彫りて建つともその甲斐なけむ」。それよりは、当時、郡長として心に感じたままを読みやすく、分かりやすく書いてもらいたいと再三云うので「いと心もかき乱れてさなきだに拙き」筆をとった、と、記念碑の建立と自分が撰文を引き受けるに至った経緯を綴っている。

そういえば記念碑の裏面に刻まれている「寄付人名」の「広田村」の項には「小松駒治郎 同 音三郎」とあり、さらに小松駒治郎の名前の脇には「世話人」と書いてある。要するに小松駒治郎は『大海嘯記念碑』建立の正式の世話人であり、同時に、その機会に建立された大位牌「丙申大海嘯溺死者諸精霊等」を、一族であり郡会議員でもあった小松音三郎とともに発起した人物であった。

§ 3. 大位牌にもっと光を

瞬時にして万余の命を奪い去った明治三陸大津波の人々に与えた衝撃は、現代に生きる我々の想像を絶するものであった。

「海嘯の恐るべきは、むしろ地震の恐るべきよりも恐るべし。今や東北三陸の地、その恐るべき奇襲に遭う。天運の如何ともすべからざるによるといへども、その不幸誠に哀れむべきの至りならずや」（『東京日日新聞』）。こうして明治三陸大津波は「千載記憶を消す能わざるの大惨事」（綾里、長林寺内、村上巳之作家の記念碑）として記憶され、その日「明治二十九年六月十五日という日は実に哀しく痛ましく忘れんとするも忘れ難き日」（『大海嘯記念碑』）となった。

しかしながら、それから 100 年余の年月を経た今日では、その 6 月 15 日の意味を知る人たちはごく少なく、旧暦 5 月 5 日の端午の節句になって祝いの膳を上げることはあっても、津波で亡くなった先祖のために線香の一本でも手向けようかという人はほとんどいなくなった。年月の変遷による、どうすることもできない風化のためである。

一方、近年、津波注意報や警報が発令されるたびに住民の避難率の少ないことが問題になる。例えば岩手県では、2006 年 11 月と 2007 年 1 月に、岩手県沿岸部に「津波注意報」が出されたことと関連して、その時、沿岸住民がどのように行動したかについて、県の総合防災室が調査したところ、避難したのは、全体の 1 割にも満たない 9.4%、危険を感じながら避難しなかった人が 39.4%、はじめから避難しようと考えなかった人が 41.6% だったという。津波の場合は、仮にそれが「注意報」であっても避難しなければならないことになっている。過去の経験から、津波が来てからでは遅いということがあって気象庁は慎重を期しているのだが、にもかかわらず、注意報だからとの自己判断で避難しなかった人が 35.4% を占めていたことも明らかになった（2007・5・15 『朝日新聞』岩手県版）。

背景をさぐると、当事者たちは、あれこれと理由を上げるが、結局は、何度でも、津波体験の風化という現実突き当たる。例えば明治三陸大津波の記憶。かつて、大津波の恐怖から逃れて、奇しくも生き残ることのできた人たちが涙とともに綴った「千載記憶を消す能わざるの大惨事」が、今や忘れ去られようとしているのである。

元々、津波というのは、その災害間隔が長いため、

自然にまかせておけばどんどん風化して行く災害である。したがって、この風化に歯止めをかけるためには、人間社会の意識的、持続的な努力がどうしても必要になる。そうしないと、いつの日か、また天地号泣するような大災害になるという哀しい歴史を繰り返してきたのが津波なのである。我々はその歴史的な教訓に謙虚に学び、そのための努力を怠らないようにしなければならない。

その方法の一つは、津波災害を記録し、恐怖と教訓を伝える災害文化、例えていえば各地に建立されている津波記念碑などに対してもっと照明をあて、社会教育のために生かすことである。そのためにこそ、当時の人たちは、浄財を募ってこうした記念碑などを建立し、残したのである。だが、これらの記念碑は、百余年の長きにわたって雨風にさらされて来たため、すでに石材そのものが風化しはじめているのに加えて、当時の文章スタイルの問題もあって、残念ながら今では、記述してある内容そのものを読み取り、理解することすら難しくなっている。したがって、その保存と書かれている教訓を伝承する手段方法については、これはこれとして別に考えなければならない。

これに対して、今その由緒を述べている洞雲寺の大位牌「丙申大海嘯溺死者諸精霊等」には、前述のように、津波に命を奪われた数多くの御霊の俗名が、赤の漆による文字で、鮮明に、しかも表面いっばいに書き詰められていて、一目するだけで、誰でもが思わず合掌し、当時の惨状と津波の恐怖に思いを馳せられるものとなっている。

なお、この大位牌は、国内の地震津波関係の学者研究者の間でよく知られているだけでなく、ドキュメンタリフィルム（「キラウエイブ」）などで、アメリカをはじめ、広く海外にも紹介されており、内外から見学を訪れる研究者も少なくない。

現在は、御住職・清水瑞邦師と檀家の方々、その存在を知る津波関係者の範囲に止まっているこの大位牌に、少なくとも岩手県の「指定有形文化財」としての光を当てることによって、広く、その存在を知らせ、明治三陸津波の史実と教訓を学ぶための、いわば一つの教材にさせていただきたいものと念じている。

文献

- 『大船渡災害誌』（大船渡市）
- 『三陸町史』（大船渡市）
- 『三陸津波誌』（大船渡市）

『1896 明治三陸地震津波報告書』（中央防災会議），
『哀史三陸大津波』（山下文男）
『津波の恐怖－三陸津波伝承録』（山下文男）他

（注）

はじめに紹介しているように（157頁），大位牌に記載された溺死者名を読み取って収録した『大船渡災害誌』は，町村ごとに合算した死亡戸数と死者の合計を整理してその末尾に示している．今回の転載にあたって念のため検算して見ると，かなりの計算違いが見られるので参考までにその双方を提示しておく．

村名	死亡戸数		死者数	
	『大船渡災害誌』	今回の計算	『大船渡災害誌』	今回の計算
越喜来村	150	150	248	424
大船渡村	58	57	121	120
唐丹村	375	368	1744	1645
赤崎村	172	169	474	468
綾里村	296	303	1344	1380
広田村	164	164	507	509
気仙村	30	30	47	39
米崎村	7	17	57	26
末崎村	207	205	708	696
吉浜村	56	55	189	189
小友村	61	62	209	206
小計	1576	1580	5648	5702
他町村		25		29
被災地外の逗留者		3		6
合計	1576	1608	5648	5737

なお，大位牌に記載されている溺死者について個別に調べて見ると，多くは各戸の仏壇などにある位牌の記録と合致しているが，中には「〇〇外〇名」という場合，それをプラスした数が，各戸の仏壇や記録にある死者数と一致しないものもかなりある．例えば，実際には3人の死者が6人と記載されていたり，反対に17人の死者が13人となっていることもある．これらは，寺や神社（神葬祭），更には町村からの報告の際の誤り，乃至は曖昧さなどの反映と考えられる．

元々，郡下の総戸数2677戸中，58.7%の家が，人工の1万8787人中，30.2%の命が失われ「孤独となる者（一人だけ生き残った者）130余人，全家死亡（全滅）して相続者なき者110余戸」という史上稀にみる大災害の記録に，何から何まで正確さを求めるのは土台無理な話であり，こうした錯乱や混乱は「歴史津波」としての1896年明治三陸津波の後遺症と理解すべきであろう．

謝辞

本稿や付表の入力は地震予知振興会の天笠周子・椎名朋子両氏による．検算は編集長の指摘が発端となった．記して感謝する．

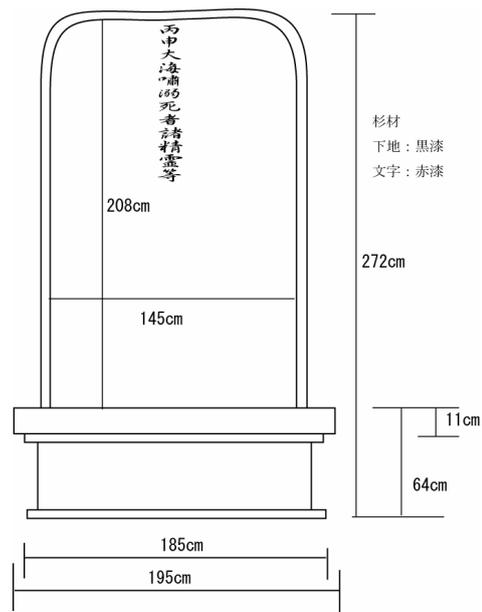


図. 現在の大位牌(上)とサイズ概略(下)
(撮影・作成 松浦 律子)

『丙申大海嘯溺死者諸精霊等』に記載されている明治三陸大津波による岩手県気仙郡内における溺死者名
 (『大船渡災害誌』収録の名簿より転載)

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
広田村	戸羽 順吉	2	広田村	長野 福三郎	2	広田村	西条 ヤサ	3
広田村	金野 長三郎	3	広田村	伊藤 平吉	5	広田村	及川 吉次郎	4
広田村	近藤 サキ	1	広田村	伊藤 忍吉	5	広田村	米谷 ハツ	
広田村	戸羽 ハル	3	広田村	木村 熊蔵	4	広田村	菅野 半蔵	3
広田村	戸羽 助次	8	広田村	吉田 文五郎	3	広田村	吉田 ナカ	2
広田村	金野 貞次	4	広田村	伊藤 音吉	8	広田村	村上 ナオ	
広田村	斉藤 アツ	3	広田村	臼井 善次郎	5	広田村	小松 ノシ	2
広田村	黄川田 シヤ	3	広田村	臼井 ヨシ	2	広田村	臼井 サリ	1
広田村	村上 ハツ	3	広田村	伊藤 トミ	3	広田村	加沢 政五郎	
広田村	黄川田 民雄	7	広田村	吉田 酉蔵	6	広田村	小松 カツ	
広田村	村上 吉之丞	1	広田村	菅野 徳之助		広田村	村上 久四郎	2
広田村	村上 サト	2	広田村	菅野 吉蔵		広田村	千葉 良三郎	2
広田村	村上 金三助		広田村	木村 ロリ	1	広田村	佐々木 忍之助	4
広田村	村上 秋之助		広田村	伊藤 弥平	5	広田村	大臣 栄之助	3
広田村	小松 ハナ	3	広田村	伊藤 真次	1	広田村	佐々木 与三郎	4
広田村	蒲生 鶴吉	2	広田村	伊藤 弥次郎	6	広田村	石川 キク	
広田村	及川 ユキ		広田村	伊藤 芳次郎	8	広田村	小西 スヘ	
広田村	前川 ユミ		広田村	伊藤 勇八	3	広田村	村上 馬吉	1
広田村	前川 甚左衛門		広田村	伊藤長十郎	4	広田村	佐々木 三平	2
広田村	前川 タマエ		広田村	伊藤 竹蔵	8	広田村	吉田 トミ	
広田村	及川 清之助		広田村	伊藤 与市	5	広田村	茂木 ウメ	
広田村	前川 芳松		広田村	伊藤 芳之助	3	広田村	佐々木 シモ	1
広田村	戸羽 源五郎		広田村	伊藤 幸右衛門	5	広田村	吉田 忠吉	
広田村	小松 ナオ		広田村	村上 長五郎	2	広田村	吉田 庄吉	
広田村	佐々木 栄之助	6	広田村	臼井 卯三郎	1	広田村	村上 源五郎	3
広田村	戸羽 キリ	5	広田村	臼井 米悟		広田村	境井 富次郎	5
広田村	小松 勘次	5	広田村	臼井 末吉		広田村	志田 エヘ	
広田村	小松 慶吉	1	広田村	臼井 辰吉	1	広田村	小西 三郎平	7
広田村	小松 米次	2	広田村	臼井 菊太郎		広田村	佐々木 志助	4
広田村	小松 ヒデ		広田村	菅野 福蔵		広田村	熊谷 サワ	
広田村	砂田 ウマ	1	広田村	菅野 庄太郎		広田村	熊谷 繁蔵	4
広田村	砂田 トミ	1	広田村	菅野 新次郎		広田村	久保 芳太郎	
広田村	熊谷 キヨシ	1	広田村	木村 庄吉		広田村	熊谷 アキ	3
広田村	砂田 サイ		広田村	高松 シモ		広田村	及川 庄吾郎	
広田村	砂田 ヒメ	2	広田村	高松 八左衛門		広田村	佐々木 ハル	1
広田村	戸羽 クニ	2	広田村	高松 甚助		広田村	吉田 丈之助	5
広田村	吉田 カメヨ		広田村	鈴木 亀松		広田村	大和田 ツル	5
広田村	砂田 ハル		広田村	鈴木 久悟		広田村	吉田 フヨ	1
広田村	砂田 音之助	3	広田村	鈴木 梅之助		広田村	菅野 タツ	
広田村	佐藤 鶴三	3	広田村	菅野 長蔵	1	広田村	菅野 儀左衛門	2
広田村	伊勢 柚次		広田村	菅野 助左衛門		広田村	大和田 スミ	2
広田村	出羽 大吉	3	広田村	吉田 トク		広田村	臼井 カメヨ	2
広田村	佐藤 安治郎	3	広田村	吉田 ミヨ	8	広田村	伊勢 サト	1
広田村	佐藤 コリヨ	1	広田村	吉田 音次郎		広田村	菅野 ナツ	2
広田村	佐藤 サオ		広田村	吉田 松治	5	赤崎村	今川 吉三郎	
広田村	佐藤 順蔵	5	広田村	吉田 栄作	1	赤崎村	沢田 広治郎	
広田村	大磯 富蔵		広田村	吉田 ミヨ	4	赤崎村	佐々木 トメ	1
広田村	黄川田 西之丞	5	広田村	吉田 寅之助		赤崎村	只野 セン	
広田村	黄川田 竹松	1	広田村	田崎 鉄蔵		赤崎村	池田 留三郎	
広田村	熊谷 惣五郎	2	広田村	臼井 富松		赤崎村	田代 金右衛門	1
広田村	斉藤 源太郎	4	広田村	吉田 安吉	8	赤崎村	金野 伝五郎	
広田村	菅野 惣兵衛	1	広田村	佐々木 彦作	5	赤崎村	金野 十三郎	1
広田村	吉田 ワク	2	広田村	臼井 ツヨ	6	赤崎村	佐藤 キクエ	1
広田村	大 セツ		広田村	佐々木 与左衛門	1	赤崎村	三浦 キノ	2
広田村	小松 イフ	1	広田村	小西 ヤシ	4	赤崎村	千葉 啓四郎	2
広田村	鈴木 ツタ	4	広田村	佐々木 善之助	2	赤崎村	千葉 市右衛門	1
広田村	佐々木 フリ	5	広田村	吉田 タマツ		赤崎村	金野 雄之助	1
広田村	鈴木 元次	2	広田村	米谷 米五郎	5	赤崎村	金野 ツル	
広田村	鈴木 サツサ		広田村	村上 タツ	2	赤崎村	金野 巳之作	6
広田村	鈴木 六蔵		広田村	鈴木 カメ		赤崎村	今野 清作	4

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
赤崎村	千葉 マツ	4	赤崎村	小松 タツ		赤崎村	志田 徳太郎	
赤崎村	金野 ナホ		赤崎村	小松 島六	5	赤崎村	石橋 卯八	4
赤崎村	佐藤 恒次		赤崎村	小松 リツ	1	赤崎村	石橋 シキ	6
赤崎村	只野 ハツ	1	赤崎村	小松 コナミ		赤崎村	磯谷 トミへ	2
赤崎村	佐藤 サクへ	2	赤崎村	志田 トメ	4	赤崎村	田中 イロ	1
赤崎村	三浦 金右衛門	2	赤崎村	志田 豊吉		赤崎村	田中 ヨシ男	3
赤崎村	佐藤 治平	2	赤崎村	鈴木 キン	1	赤崎村	田中 フノ	3
赤崎村	三浦 与平治	2	赤崎村	小松 民六	2	赤崎村	磯谷 三之助	
赤崎村	千葉 菊三郎	1	赤崎村	須賀 喜左衛門		赤崎村	志田 卯左衛門	1
赤崎村	千葉 菊三郎	2	赤崎村	志田 イク	1	赤崎村	志田 長三郎	5
赤崎村	千葉 堅太郎		赤崎村	今野 スへ		赤崎村	志田 勇五郎	1
赤崎村	金野 養太郎		赤崎村	志田 ジエン	1	赤崎村	磯谷 権之助	
赤崎村	千葉 ヨシ		赤崎村	志田 ウメ		赤崎村	義沢 源之丞	
赤崎村	舞良 長五郎		赤崎村	志田 兵五郎	3	赤崎村	台 勘十郎	
赤崎村	佐藤 福太郎	1	赤崎村	田村 ウシ	3	赤崎村	磯谷 林太郎	1
赤崎村	千葉 清之進		赤崎村	志田 タケ	4	赤崎村	磯谷 ツル	
赤崎村	三浦 クラ	2	赤崎村	志田 弥喜	6	赤崎村	大浜 六之丞	
赤崎村	金野 ノへ	2	赤崎村	志田 巳代	4	赤崎村	大浜 ケラ	2
赤崎村	三浦 ツル		赤崎村	志田 ハル	1	赤崎村	西内 弥右衛門	2
赤崎村	山口 カネ	2	赤崎村	田村 徳三郎	1	赤崎村	比田 トリ	5
赤崎村	三浦 吉	1	赤崎村	志田 ユキノ	3	赤崎村	比田 仁作	4
赤崎村	田代 大之助	6	赤崎村	和田 五三郎		赤崎村	上野 愛蔵	4
赤崎村	田端 四和蔵	2	赤崎村	石橋 春治		赤崎村	比田 源右衛門	4
赤崎村	金野 林吉	2	赤崎村	笠原 与右衛門	2	赤崎村	古内 福治	8
赤崎村	山口 カネ	2	赤崎村	志田 平太夫	2	赤崎村	上野 福之丞	5
赤崎村	山口 マツ	2	赤崎村	志田 マレ	3	赤崎村	古内 覚左衛門	9
赤崎村	金野 トク	1	赤崎村	熊沢 コヨ		赤崎村	上野 栄蔵	12
赤崎村	只野 ヨシ	2	赤崎村	志田 菊治	1	赤崎村	上野 スへ	1
赤崎村	只野 ヨシ	1	赤崎村	志田 ヤス	1	赤崎村	上野 カ子	2
赤崎村	只野 文吉		赤崎村	中山 六之進	3	赤崎村	上野 和五郎	7
赤崎村	金野 トヨノ		赤崎村	志田 喜右衛門	2	赤崎村	佐藤 栄助	3
赤崎村	金野 トメ		赤崎村	浦島 ソテ		赤崎村	村上 卯之吉	4
赤崎村	山口 トク	1	赤崎村	鎌田 康吉		赤崎村	渡辺 卯三郎	1
赤崎村	山口 留蔵	3	赤崎村	志田 譲右衛門	1	大船渡村	川原 由助	8
赤崎村	山口 スへ	4	赤崎村	志田 カル	1	大船渡村	中田 エシ	
赤崎村	山口 サト	1	赤崎村	沢田 トモへ	3	大船渡村	及川 ナツ	
赤崎村	志田 マン	2	赤崎村	志田 トミ	1	大船渡村	小西 イク	6
赤崎村	石橋 健次郎	4	赤崎村	志田 岩五郎		大船渡村	中村 サヨノ	2
赤崎村	吉田 治助	1	赤崎村	鳥沢 虎之助	2	大船渡村	大和田 ハツノ	2
赤崎村	山口 ハツ		赤崎村	鳥沢 ミハ	1	大船渡村	新井 新之助	
赤崎村	吉田 ミヨノ	1	赤崎村	東 雷蔵	4	大船渡村	新沼 辺蔵	3
赤崎村	吉田 吉左衛門	2	赤崎村	浦島 初次郎		大船渡村	中村 アキ	
赤崎村	吉田 ハツへ		赤崎村	森 ミヨシ		大船渡村	佐藤 徳右衛門	2
赤崎村	山口 金蔵		赤崎村	千葉 トワ		大船渡村	佐藤 タへ	2
赤崎村	山口 鳥三郎		赤崎村	森 半蔵	3	大船渡村	佐藤 馬吉	
赤崎村	吉田 円吉	2	赤崎村	千葉 ノリ	5	大船渡村	川原 九五郎	2
赤崎村	志田 ハツへ	9	赤崎村	石橋 ヤナ	1	大船渡村	中田 フク	
赤崎村	志田 リョウ	6	赤崎村	鎌田 初五郎	1	大船渡村	後藤 亀五郎	3
赤崎村	鈴木 キツ	2	赤崎村	鎌田 スミ	1	大船渡村	後藤 平作	1
赤崎村	志田 覚右衛門	4	赤崎村	東 ナミへ		大船渡村	及川 レン	
赤崎村	志田 ミツノ		赤崎村	鎌田 平右衛門	1	大船渡村	新沼 ナツ	3
赤崎村	志田 勘右衛門	2	赤崎村	石橋 ハツへ	2	大船渡村	新沼 チャウ	2
赤崎村	志田 キクエ	2	赤崎村	崎山 清十郎	2	大船渡村	新沼 テイ	2
赤崎村	志田 清瀬郎		赤崎村	崎山 巳ノ吉	1	大船渡村	浦島 藤吉	4
赤崎村	小松 コイセ		赤崎村	崎山 寿		大船渡村	小畑 トミ	3
赤崎村	須賀 太郎松	2	赤崎村	志田 マス		大船渡村	佐藤 トク	
赤崎村	志田 マツ	2	赤崎村	浦島 即三郎		大船渡村	新沼 セキ	
赤崎村	小松 フへ	4	赤崎村	東 八左夫		大船渡村	佐藤 慶五郎	1
赤崎村	鈴木 養之進		赤崎村	石橋 権之助		大船渡村	新沼 儀三郎	2
赤崎村	鈴木 キヨノ		赤崎村	大畑 幸作	1	大船渡村	佐藤 ヨズ	3

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
大船渡村	佐藤 ヨシ		綾里村	入沢 新三	3	綾里村	泉 三之助	4
大船渡村	新沼 ツルヨ		綾里村	館脇 弥十郎	14	綾里村	泉 政蔵	2
大船渡村	新沼 昇		綾里村	館脇 駒太郎	3	綾里村	中島 シセ	
大船渡村	平山 芳次	1	綾里村	小坪 豊三郎	6	綾里村	葛西 源七	5
大船渡村	佐藤 ラチウ	1	綾里村	古沢 長右衛門	4	綾里村	和田 述次郎	1
大船渡村	佐藤 ミケ		綾里村	館脇 寅治	4	綾里村	浦島 熊治	9
大船渡村	平山 ハマ		綾里村	橋本 三五郎	6	綾里村	千田 市兵衛	3
大船渡村	新沼 芳松		綾里村	尾坪 豊三郎	4	綾里村	米沢 銀作	7
大船渡村	及川 駒治		綾里村	館脇 太三郎	8	綾里村	菅野 スワ	8
大船渡村	佐藤 弥右衛門		綾里村	館脇 干治	8	綾里村	村上 浦治	7
大船渡村	中村 トシ	2	綾里村	熊谷 栄蔵	5	綾里村	佐々木 長四郎	4
大船渡村	小畑 専七		綾里村	熊谷 権三郎	5	綾里村	橋本 クヨ	7
大船渡村	新沼 マツ		綾里村	木下 豊松	1	綾里村	橋本 熊次郎	
大船渡村	佐東 儀一郎		綾里村	木下 惣次郎	3	綾里村	佐々木 サシ	2
大船渡村	佐々木 運太郎		綾里村	木下 弥之助	4	綾里村	及川 テン	4
大船渡村	浜田 永治	1	綾里村	山岸 鳥五郎	5	綾里村	山崎 トヨ	3
大船渡村	新沼 ナラヘ	1	綾里村	熊谷 助右衛門	2	綾里村	山下 ツヨ	5
大船渡村	佐藤 由兵衛		綾里村	熊谷 卯三郎	1	綾里村	米沢 与平次	4
大船渡村	平山 三太郎		綾里村	木下 弥八	12	綾里村	村上 スウ	4
大船渡村	平山 伊太郎		綾里村	新谷 利蔵	3	綾里村	吉田 与次右衛門	2
大船渡村	山本 重吉		綾里村	村上 福治	4	綾里村	砂金 竹三郎	5
大船渡村	木下 谷蔵		綾里村	村上 円之助	3	綾里村	佐々木 金吉	2
大船渡村	及川 フク	1	綾里村	村上 甚作	6	綾里村	千葉 初吉	9
大船渡村	平山 ユリ		綾里村	仮谷 鳥松	5	綾里村	千葉 留次	6
大船渡村	矢作 ノフ		綾里村	仮谷 鳥蔵	8	綾里村	鈴木 国次	3
大船渡村	及川 惣五郎		綾里村	鳥越 ワカ	4	綾里村	清水 ウメ	
大船渡村	佐藤 半助	3	綾里村	室 音次郎	1	綾里村	村上 与三郎	3
大船渡村	栗村 福治		綾里村	村上 佐蔵		綾里村	佐々木 勘助	
大船渡村	浜田 フツノ		綾里村	西風 栄三	3	綾里村	砂金 覚治	3
大船渡村	新沼 シヘノ	2	綾里村	西風 ツネ	3	綾里村	村上 三太	8
綾里村	坂本 万太郎	6	綾里村	西風 三太	6	綾里村	熊谷 マツ	
綾里村	川原 惣次郎	4	綾里村	館脇 五蔵	6	綾里村	橋本 安治	5
綾里村	川下 十松	3	綾里村	木下 安吉	4	綾里村	木下 ナラ	3
綾里村	熊谷 喜平次	4	綾里村	中村 庭蔵		綾里村	村上 市三郎	4
綾里村	吉田 安蔵	4	綾里村	熊谷 トメ	1	綾里村	村上 サヨ	2
綾里村	館下 吉右衛門	6	綾里村	岸釜 トメ	2	綾里村	村上 深作	7
綾里村	館下 民蔵	6	綾里村	岸釜 ナツ		綾里村	村上 広次	10
綾里村	熊谷 円蔵	3	綾里村	山下 ウメ	5	綾里村	千田 鶴次	1
綾里村	鈴木 永吉	7	綾里村	川上 金兵衛	1	綾里村	柏 丈治	2
綾里村	今野 亀吉	7	綾里村	川向 丈吉	10	綾里村	館脇 庄作	3
綾里村	田中 駒吉	1	綾里村	中島 福蔵	8	綾里村	和田 庄七	2
綾里村	竹沢 弥五郎	6	綾里村	中島 大三郎	4	綾里村	館脇 清五郎	2
綾里村	村上 ハル		綾里村	千葉 久左衛門	4	綾里村	佐藤 市三郎	1
綾里村	小川 由助		綾里村	新沼 ナカ	1	綾里村	米沢 忠作	2
綾里村	右川 植究	4	綾里村	小西 深作	5	綾里村	野々村与次右衛門	8
綾里村	鈴木 弥五右衛門	2	綾里村	泉 利吉	3	綾里村	東川 勇吉	5
綾里村	野沢 久治	2	綾里村	大西 イツ	10	綾里村	米沢 民治	3
綾里村	沢村 丈作	7	綾里村	新沼 治郎	5	綾里村	熊谷 大三郎	3
綾里村	山下 トミ	6	綾里村	新沼 亀蔵	8	綾里村	米川 幸吉	4
綾里村	野々村 善作	7	綾里村	泉 カツコ	2	綾里村	砂金 善次	7
綾里村	野々村 勇太郎	3	綾里村	佐東 与助	1	綾里村	千葉 東吉	4
綾里村	橋本 庄吾	4	綾里村	中島 治平衛	2	綾里村	村上 マツヘ	
綾里村	野々村 藤蔵	5	綾里村	千田 徳蔵	4	綾里村	千田 与太郎	7
綾里村	村上 関治	3	綾里村	新沼 征蔵	8	綾里村	佐藤 卯三郎	5
綾里村	橋本 兵悟	10	綾里村	新沼 春次	2	綾里村	橋本 栄吉	6
綾里村	村中 吉助	3	綾里村	泉 留次郎	4	綾里村	米沢 忠兵衛	5
綾里村	古沢 市三	4	綾里村	新沼 万之助	5	綾里村	里見 松蔵	4
綾里村	室 熊治	4	綾里村	泉 述三郎	3	綾里村	佐藤 長蔵	5
綾里村	入沢 ミヨ	1	綾里村	泉 留蔵	3	綾里村	佐々木 長吉	3
綾里村	入沢 キク		綾里村	泉 文左衛門	3	綾里村	柏木 ヨシ	3

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
綾里村	鈴木 菊裕	2	綾里村	千田 リキヨ	3	綾里村	橋本 山次郎	1
綾里村	大森 直松	5	綾里村	千田 治四郎		綾里村	大久保 久左衛門	1
綾里村	浦嶋 勝之助	8	綾里村	千田 ヒテ	4	綾里村	村上 栄作	3
綾里村	和田 駒松	4	綾里村	大坪 シモ	1	綾里村	山崎 甚之助	7
綾里村	村上 吉蔵	9	綾里村	畑中 マツヨ		綾里村	船渡 門蔵	
綾里村	和田 サン	2	綾里村	佐々木 深作	1	綾里村	山崎 甚之助	7
綾里村	佐々木 リキ	3	綾里村	橋本 茂太郎		綾里村	富沢 賀蔵	6
綾里村	山本 カン	5	綾里村	佐々木 栄五郎	1	綾里村	小浜 新作	5
綾里村	和田 吉兵衛	3	綾里村	坂本 マシ		綾里村	向井 留作	
綾里村	和田 仁吉	4	綾里村	岩沢 藤治	4	綾里村	千田 ツヨ	
綾里村	植木 利七	3	綾里村	尾形 カル	3	綾里村	森 サワ	
綾里村	米沢 トキ		綾里村	岩沢 三之助	5	綾里村	千田 ツキ	
綾里村	熊谷 裕之助	4	綾里村	岩沢 幸作	7	綾里村	川原 伝治	6
綾里村	鈴木 利蔵	4	綾里村	小槌 巳吉		綾里村	下田 善吉	7
綾里村	千葉 豊吉	1	綾里村	佐々木 松吉	9	綾里村	新沼 富蔵	2
綾里村	大平 ヨシ	5	綾里村	坂本 カネ	1	綾里村	新沼 リヨ	2
綾里村	館脇 弥助	2	綾里村	坂本 福松		綾里村	佐々木 亀吉	
綾里村	西村 泉一	5	綾里村	畑中 勇七		綾里村	佐々木 忠吉	6
綾里村	野々村 東次郎	3	綾里村	森田 栄蔵		綾里村	松川 市七	2
綾里村	中嶋 銀蔵	4	綾里村	佐々木 万治		綾里村	松川 ヨシ	
綾里村	藤田 源四郎	2	綾里村	千葉 キク		綾里村	佐々木 寅吉	3
綾里村	野々村 健助	4	綾里村	鈴木 セナ	1	綾里村	佐々木 治三郎	4
綾里村	村上 善兵衛	9	綾里村	佐藤 キク	1	綾里村	川原 巳之助	2
綾里村	新沼 寅蔵	2	綾里村	佐藤 キノ	1	綾里村	富崎 マン	2
綾里村	小野 トミ	2	綾里村	佐藤 仁吉		綾里村	滝田 長七	1
綾里村	中和野 政右衛門	1	綾里村	佐藤 甚蔵	2	綾里村	佐藤 作次	2
綾里村	菅野 多利七	1	綾里村	村上 巳之作	12	綾里村	佐藤 ナシ	2
綾里村	及川 富右衛門	2	綾里村	前野 豊吉	6	綾里村	細谷 マン	5
綾里村	松田 長松	1	綾里村	久保 トメ	3	綾里村	細谷 喜十郎	1
綾里村	松本 市十郎	1	綾里村	佐藤 三八		綾里村	田中 福松	6
綾里村	菊地 村吉		綾里村	熊谷 利八		綾里村	坂本 ヨネ	
綾里村	根守 専太郎	5	綾里村	川上 カネ	1	綾里村	中島 運蔵	4
綾里村	遠藤 純蔵	1	綾里村	細谷 マシ		綾里村	村上 コサン	3
綾里村	松田 隆征		綾里村	田中 又蔵	5	唐丹村	河東 ハルヘ	
綾里村	千田 米作	3	綾里村	熊谷 忠三郎	3	唐丹村	河東 準丈	3
綾里村	鈴木 惣太郎	3	綾里村	熊谷 熊治	3	唐丹村	清水 マツノ	1
綾里村	千葉 松助	3	綾里村	小向 養吉	3	唐丹村	清水 卯之松	2
綾里村	染長 三助	3	綾里村	熊谷 金蔵	2	唐丹村	岩沢 タマ	1
綾里村	山崎 甚七	5	綾里村	熊谷 長吉	2	唐丹村	尾形 善之丞	4
綾里村	柴田 キヨ	5	綾里村	向沢 イヨ	5	唐丹村	水戸 喜蔵	3
綾里村	山崎 作右衛門	7	綾里村	熊谷 円次	4	唐丹村	尾形 留之助	3
綾里村	山崎 豊吉	4	綾里村	熊谷 平左衛門	9	唐丹村	鈴木 徳蔵	5
綾里村	山岸 マツ	2	綾里村	千田 フヨ	7	唐丹村	千葉 辰之助	3
綾里村	千葉 養蔵	6	綾里村	西野 彦三郎	3	唐丹村	鈴木 岩光	3
綾里村	柴田 新八	6	綾里村	熊谷 熊造	6	唐丹村	菊地 熊吉	2
綾里村	東川 勘助	3	綾里村	熊谷 忠七	5	唐丹村	磯端 ミカ	
綾里村	柴田 大蔵	2	綾里村	熊谷 浅治	3	唐丹村	留畑 市三郎	8
綾里村	千葉 平五郎	3	綾里村	沢 与平次	2	唐丹村	留畑 ロシ	1
綾里村	千葉 フカ		綾里村	川畑 仁右衛門	6	唐丹村	尾形 栄之助	4
綾里村	千葉 イツ	1	綾里村	道下 金五郎	5	唐丹村	岩畑 卯之助	1
綾里村	千葉 福三郎	3	綾里村	道畑 源十郎	6	唐丹村	千葉 サン	4
綾里村	佐々木 三之助	4	綾里村	道畑 鶴松	4	唐丹村	尾形 子之松	
綾里村	千葉 民治	5	綾里村	熊谷 金作	10	唐丹村	葛西 松四郎	3
綾里村	千葉 新三郎		綾里村	新沼 三二郎	2	唐丹村	鈴木 ヨシ	
綾里村	千田 寅蔵	1	綾里村	小向 カメ		唐丹村	小沢 伊之助	1
綾里村	千田 シモ		綾里村	熊谷 卯蔵	7	唐丹村	三島 歌蔵	7
綾里村	千田 リキ	1	綾里村	熊谷 新蔵	7	唐丹村	小沢 コマツ	3
綾里村	小坪 鶴松		綾里村	熊谷 文吉	5	唐丹村	木村 助太郎	4
綾里村	千田 儀助	3	綾里村	西野 甚作	3	唐丹村	木村 勇助	1
綾里村	大坪 ノツ		綾里村	村上 作右衛門	7	唐丹村	鈴木 富助	4

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
唐丹村	留畑 市之丞	6	唐丹村	大沢 蔵四郎	8	唐丹村	鈴木 サツ	4
唐丹村	留畑 喜代治	3	唐丹村	奥 寿五郎	4	唐丹村	栗沢 安兵衛	8
唐丹村	松井 忠助	4	唐丹村	大沢 伊左衛門	5	唐丹村	三浦 熊五郎	6
唐丹村	中村 伊七松	2	唐丹村	上野 勉五右衛門	5	唐丹村	村上 デン	3
唐丹村	中村 富次	1	唐丹村	木村 万吉	4	唐丹村	栗村 新左衛門	3
唐丹村	河戸 伝五郎	5	唐丹村	尾形 桃蔵	4	唐丹村	葛西 カメエ	3
唐丹村	磯野 伊蔵	3	唐丹村	木村 サツ	3	唐丹村	佐々木 善四郎	5
唐丹村	磯野 平助	3	唐丹村	清水 トヨズ	1	唐丹村	葛西 菊治	9
唐丹村	尾形 平左衛門	2	唐丹村	鈴木 忠吉	4	唐丹村	曾根 治三郎	4
唐丹村	岩沢 文一郎	4	唐丹村	尾形 駒吉	5	唐丹村	佐々木 伝蔵	9
唐丹村	尾形 コマン	1	唐丹村	千葉 福蔵	6	唐丹村	千葉 弥右衛門	1
唐丹村	井上 エン	2	唐丹村	千葉 金五郎	4	唐丹村	村上 イト	4
唐丹村	磯崎 マコ	1	唐丹村	上野 平吉	4	唐丹村	小浜 サン	2
唐丹村	磯崎 イセノ	2	唐丹村	松田 コサシ	3	唐丹村	村上 音松	3
唐丹村	高橋 庄兵衛	1	唐丹村	高橋 林兵衛	8	唐丹村	鈴木 文吉	2
唐丹村	佐々木 安兵衛	1	唐丹村	木村 伝三	5	唐丹村	葛西 伊七松	6
唐丹村	河原 丈吉	2	唐丹村	小野 キツ	6	唐丹村	佐々木 ヨヅコ	3
唐丹村	千葉 コセツ	4	唐丹村	木村 丑三郎	2	唐丹村	千葉 甚作	3
唐丹村	河原 丑松	6	唐丹村	尾形 兵三	3	唐丹村	村上 音四郎	4
唐丹村	上野 栄吉	1	唐丹村	千葉 源八	2	唐丹村	佐野 サノ	4
唐丹村	千葉 安光	4	唐丹村	小野 重之助	3	唐丹村	曾根 春松	3
唐丹村	清水 レン		唐丹村	千葉 カン	3	唐丹村	小梨 庄左衛門	4
唐丹村	山崎 善之助	1	唐丹村	鈴木 春三	3	唐丹村	村上 ユキエ	7
唐丹村	上野 万蔵	1	唐丹村	千葉 イツ	1	唐丹村	葛西 平七	3
唐丹村	上野 庄之助	8	唐丹村	千葉 伝三	4	唐丹村	葛西 庄八	4
唐丹村	上野 平作	2	唐丹村	板乗 八十	1	唐丹村	猪川 庄次	1
唐丹村	三浦 市治	8	唐丹村	木村 サワ	1	唐丹村	上野 与蔵	3
唐丹村	上村 伝治	8	唐丹村	高橋 留四郎	2	唐丹村	砂野 菊八	5
唐丹村	上村 留三郎	6	唐丹村	木村 与助	2	唐丹村	三浦 駒之助	3
唐丹村	三浦 伝福	5	唐丹村	木村 与右衛門	5	唐丹村	佐々木 清松	3
唐丹村	菊地 久助	2	唐丹村	三浦 トミヘ	3	唐丹村	千葉 ツ子	2
唐丹村	山崎 タケ		唐丹村	鈴木 伊蔵		唐丹村	柏 マツ	1
唐丹村	井上 コヤシ	3	唐丹村	木村 専之助		唐丹村	葛西 養助	5
唐丹村	板乗 清吉	6	唐丹村	木村 熊吉		唐丹村	水沢 芳平	1
唐丹村	尾形 与七	3	唐丹村	千葉 キノ		唐丹村	鈴木 市郎	2
唐丹村	尾形 源蔵	1	唐丹村	鈴木 栄三郎	1	唐丹村	鈴木 繁治	2
唐丹村	三浦 弥兵衛	6	唐丹村	木村 竹三郎	2	唐丹村	千葉 弥蔵	4
唐丹村	三浦 丑治	6	唐丹村	岩沢 コヤシ		唐丹村	葛西 勘六	1
唐丹村	井上 ハツ		唐丹村	上村 トクノ		唐丹村	三浦 嘉門	6
唐丹村	河原 留五郎	3	唐丹村	千葉 鉄五郎	5	唐丹村	栢谷 留吉	2
唐丹村	佐々木 シゲ	2	唐丹村	上村 コマサ	2	唐丹村	鈴木 与六	4
唐丹村	小野 惣六	7	唐丹村	木村 ラク	3	唐丹村	村上 直左衛門	2
唐丹村	木村 与之助	5	唐丹村	上村 惣五郎	5	唐丹村	三浦 丑太郎	4
唐丹村	木村 市之助	9	唐丹村	板乗 卯三郎	1	唐丹村	栢賀 嘉太郎	1
唐丹村	片山 イツ		唐丹村	上村 卯太郎	4	唐丹村	佐々木 伝五郎	6
唐丹村	井上 泰吾	1	唐丹村	三浦 助松	5	唐丹村	中村 庄助	6
唐丹村	上野 ダニ	3	唐丹村	吉野 六三郎	2	唐丹村	葛西 源内	1
唐丹村	川村 キヨ	5	唐丹村	高橋 林四郎	2	唐丹村	葛西 昇	2
唐丹村	井上 清左衛門	4	唐丹村	上野 新吉	3	唐丹村	葛西 善松	3
唐丹村	水沢 イセ	3	唐丹村	山沢 イチ	4	唐丹村	木下 清三郎	3
唐丹村	岩沢 霜五郎	3	唐丹村	山沢 芳蔵	1	唐丹村	佐藤 彦松	7
唐丹村	小林 勘三	3	唐丹村	山沢 仁蔵	3	唐丹村	中田 サツ	6
唐丹村	村上 善治	4	唐丹村	山沢 康吉	3	唐丹村	千葉 与右衛門	4
唐丹村	木村 徳治	1	唐丹村	葛西 幸治郎	1	唐丹村	佐久間 惣五郎	4
唐丹村	木村 勘之助	3	唐丹村	佐々木 志吉	7	唐丹村	越後 亀松	2
唐丹村	俵 伝四郎	7	唐丹村	佐々木 源四郎	7	唐丹村	鈴木 トク	1
唐丹村	佐々木 五郎	1	唐丹村	葛西 庄七	5	唐丹村	佐久間 市右衛門	5
唐丹村	佐々木 栄助	3	唐丹村	佐々木 善作	8	唐丹村	武山 三右衛門	5
唐丹村	佐々木 七之助	2	唐丹村	佐々木 平作	4	唐丹村	千葉 儀八郎	2
唐丹村	木村 トヲ	3	唐丹村	佐野 久三郎	2	唐丹村	細川 長兵衛	5

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
唐丹村	佐々木 サト	5	唐丹村	佐々木 常助	4	唐丹村	佐々木 ハル	2
唐丹村	佐々木 孫三郎	3	唐丹村	葛西 善吉	1	唐丹村	大滝 彦吉	7
唐丹村	千葉 留之助	6	唐丹村	葛西 万之丞	3	唐丹村	佐々木 善右衛門	6
唐丹村	木下 鶴松	3	唐丹村	鈴木 ヨシ	6	唐丹村	佐々木 与吉	4
唐丹村	三浦 久五郎	1	唐丹村	川畑 大蔵	1	唐丹村	佐々木 卯右衛門	7
唐丹村	笹山 トヨ	1	唐丹村	木村 征助	2	唐丹村	鳥居 マツヘ	7
唐丹村	伊勢 利右衛門	8	唐丹村	三浦 与吉	7	唐丹村	佐々木 千三郎	4
唐丹村	佐久間 善次郎	1	唐丹村	蘭賀 宮松	5	唐丹村	佐久間 市之助	1
唐丹村	佐々木 三十郎	12	唐丹村	三浦 アサ	3	唐丹村	原 桃次	2
唐丹村	小的 清太郎	5	唐丹村	佐久間 善五郎	3	唐丹村	佐々木 ミノ	1
唐丹村	大木 長治	3	唐丹村	川畑 イト		唐丹村	橋本 安五郎	1
唐丹村	佐藤 巳八	1	唐丹村	小沢 伊三助	3	唐丹村	橋本 岩五郎	3
唐丹村	三浦 タノ	1	唐丹村	金野 達蔵		唐丹村	中村 コフク	1
唐丹村	千葉 新作	1	唐丹村	元木 マツ	2	唐丹村	中村 倉松	2
唐丹村	中畑 嘉七	2	唐丹村	板桑 卯太郎	4	唐丹村	木下 勘次郎	
唐丹村	小浜 貞吉	4	唐丹村	板桑 ナツ	2	唐丹村	熊沢 アサノ	2
唐丹村	岩崎 佐吉	5	唐丹村	曾根 タメヨ	4	唐丹村	松本 甚三郎	5
唐丹村	三浦 金蔵	4	唐丹村	高木 コナヨ	1	唐丹村	熊谷 音吉	5
唐丹村	葛西 利右衛門	4	唐丹村	岩本 新蔵	5	唐丹村	熊谷 卯吉	4
唐丹村	小的 伝七	4	唐丹村	曾根 ハル	1	唐丹村	熊谷 亀吉	4
唐丹村	三浦 サノ	4	唐丹村	佐々木 吉之助	2	唐丹村	川原 伊惣太	5
唐丹村	山崎 竹七	3	唐丹村	小浜 竹次	4	唐丹村	鈴木 菊松	5
唐丹村	鈴木 歌吉	7	唐丹村	三浦 平兵衛	4	唐丹村	鈴木 長征	2
唐丹村	小池 サヨ	2	唐丹村	木下 脇之助	5	唐丹村	雪西 ミケ	6
唐丹村	鈴木 卯太郎	5	唐丹村	遠野 ヒナ	2	唐丹村	湯浅 源太郎	2
唐丹村	佐々木 長蔵	1	唐丹村	岩沢 ヤツ	1	唐丹村	中村 久八	2
唐丹村	岩城 ヨテコ	4	唐丹村	阿部 ハルヘ	1	唐丹村	雪西 治三郎	3
唐丹村	平館 伝作	4	唐丹村	千葉 亀之助	2	唐丹村	角地 ハル	6
唐丹村	佐野 慶蔵	2	唐丹村	山沢 幸吉	1	唐丹村	大川原 ヨシ	3
唐丹村	佐藤 富次	5	唐丹村	佐々木 喜多助	2	唐丹村	曾根 仁右衛門	6
唐丹村	元木 テン	6	唐丹村	三浦 キクノ	3	唐丹村	松本 三之助	7
唐丹村	葛西 キヘ	3	唐丹村	佐々木 勘次郎	3	唐丹村	小下 甚之助	4
唐丹村	三浦 吉三郎	6	唐丹村	佐々木 巳之吉	1	唐丹村	沢田 佐次郎	2
唐丹村	三浦 芳四郎	6	唐丹村	大滝 久右衛門	4	唐丹村	高橋 庄次郎	3
唐丹村	菊地 伝丙	4	唐丹村	大滝 銀蔵	7	唐丹村	青山 文四郎	
唐丹村	上野 兵次	6	唐丹村	合沢 ヨシ	3	唐丹村	郷六 甚蔵	
唐丹村	菱西 ユリ	2	唐丹村	合沢 文蔵	6	唐丹村	村上 ツヨノ	3
唐丹村	川畑 亀蔵	10	唐丹村	矢浦 フミ	4	唐丹村	大向 ミシ	
唐丹村	大木 亀吉	8	唐丹村	佐々木 マサ	5	唐丹村	上野 甚四郎	
唐丹村	葛西 フク	4	唐丹村	佐々木 サノ	2	唐丹村	下野 ツルヘ	
唐丹村	葛西 善十郎	9	唐丹村	佐々木 善太郎	1	唐丹村	鈴木 キク	
唐丹村	小浜 庄吉	2	唐丹村	佐々木 文三郎	6	気仙村	細田 惣吉	
唐丹村	佐久間 幸三郎	2	唐丹村	鳥居 宇八	6	気仙村	米谷 ヨネ	1
唐丹村	鈴木 ミワ	4	唐丹村	佐々木 勘四郎	4	気仙村	細田 万喜	
唐丹村	佐々木 清五郎	9	唐丹村	佐々木 伊七蔵	10	気仙村	菅野 多利七	
唐丹村	曾根 与之助	6	唐丹村	佐々木 長次	6	気仙村	黒沢 ハツ	
唐丹村	上野 千太郎	5	唐丹村	佐々木 長七	8	気仙村	中山 清吉	
唐丹村	千葉 トラ	2	唐丹村	鳥居 キノ	2	気仙村	鈴木 サヨ	
唐丹村	上野 キヨ	2	唐丹村	佐々木 コハル	3	気仙村	河野 ナカ	
唐丹村	三浦 万蔵	5	唐丹村	佐々木 フリ	2	気仙村	河野 ミサホ	
唐丹村	岩城 フツ	8	唐丹村	佐々木 仁八	3	気仙村	佐々木 源太郎	
唐丹村	千葉 富助	4	唐丹村	鳥居 留松	8	気仙村	吉田 喜平太	2
唐丹村	三浦 助太郎	5	唐丹村	鳥居 源右衛門	7	気仙村	吉田 キク	
唐丹村	岩城 キノ	2	唐丹村	川原 ヨシ	7	気仙村	吉田 吉之助	1
唐丹村	三浦 ヤマン	5	唐丹村	川原 六右衛門	5	気仙村	伊藤 久吉	
唐丹村	鈴木 清之丞	3	唐丹村	大滝 安右衛門	6	気仙村	藤原 新吉	1
唐丹村	三浦 ツル	2	唐丹村	佐々木 亀太	4	気仙村	河野 ノヘ	
唐丹村	三浦 トキ	5	唐丹村	佐々木 タマ	2	気仙村	伊藤 フク	1
唐丹村	三浦 与四郎	6	唐丹村	佐々木 彦三郎	5	気仙村	大坂 倉松	
唐丹村	三浦 善吉	1	唐丹村	合沢 ナヨ	5	気仙村	大坂 フツヘ	

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
気仙村	菊田 モン		吉浜村	松田 ヒヤク	2	越喜来村	及川 清次郎	5
気仙村	松田 紋之助		吉浜村	中井 市吉		越喜来村	川畑 庄作	7
気仙村	熊谷 平作		吉浜村	横田 鉄之助		越喜来村	中島 与七	4
気仙村	吉田 旨	1	吉浜村	新沼 長治郎	1	越喜来村	中島 リセ	
気仙村	熊谷 卯吉	1	吉浜村	小松 イサ		越喜来村	中島 五平	3
気仙村	吉田 マツ		吉浜村	小松 仁右衛門		越喜来村	刈谷 ツル	1
気仙村	菅野 アク	1	吉浜村	柏崎 熊次	1	越喜来村	刈谷 初助	
気仙村	佐々木 ミハル		吉浜村	岡崎 嘉七		越喜来村	川畑 与左衛門	3
気仙村	武蔵 トメ		吉浜村	新沼 民蔵		越喜来村	川畑 万才	5
気仙村	村上 マン		吉浜村	爪木沢 甚七	1	越喜来村	畑中 和蔵	5
気仙村	菅野 コウメ		吉浜村	岡崎 亀太郎	1	越喜来村	横沢 清右衛門	3
米崎村	熊谷 カネ	1	吉浜村	岡崎 ユタヨ		越喜来村	中島 元助	6
米崎村	佐々木 芳兵衛	2	吉浜村	小松 与蔵		越喜来村	中島 フミ	2
米崎村	吉田 善喜		吉浜村	新沼 サト		越喜来村	上野 善左衛門	
米崎村	吉田 タキ	1	吉浜村	館下 キヨ		越喜来村	遠藤 三右衛門	1
米崎村	佐々木 ウメヨ		吉浜村	庄司 ナオ		越喜来村	中島 キク	
米崎村	佐々木 マサヨ		吉浜村	菊地 久蔵		越喜来村	及川 甚之丞	2
米崎村	吉田 善吉		吉浜村	菊地 ロク	1	越喜来村	川畑 治右衛門	
米崎村	大和田 ナヲヘ		吉浜村	中根 タオ	1	越喜来村	中島 ハヨ	
米崎村	金野 トミ		吉浜村	中井 清治郎		越喜来村	刈谷 フサ	6
米崎村	新沼 カシク	2	吉浜村	東 コハル		越喜来村	西村 新七	7
米崎村	佐藤 鶴吉		吉浜村	菊地 ヨモヘ		越喜来村	西村 善助	
米崎村	吉田 オヘチ		吉浜村	木川田 トモヘ		越喜来村	江刺 イク	4
米崎村	熊谷 ナク	1	越喜来村	及川 市十郎	1	越喜来村	樋口 菊蔵	
米崎村	菅原 セン		越喜来村	見世 マツ		越喜来村	及川 イケ	1
米崎村	吉田 秀三郎		越喜来村	木下 岩三	3	越喜来村	森 清治	
米崎村	金野 運三	2	越喜来村	東 庄三郎	8	越喜来村	森 辰治	4
米崎村	吉田 善五郎		越喜来村	東 エン	4	越喜来村	及川 ヨシ	
吉浜村	横石 コン	1	越喜来村	東 ユキ		越喜来村	山内 シオ	1
吉浜村	橋本 与作	4	越喜来村	東 シノ	2	越喜来村	佐々木 三次	8
吉浜村	横尾 フテ	1	越喜来村	東 ミネ	2	越喜来村	若林 弥左衛門	2
吉浜村	柏崎 金三郎	7	越喜来村	及川 マシ		越喜来村	田中 留蔵	
吉浜村	柏崎 弥右衛門	6	越喜来村	富沢 甚助	3	越喜来村	田中 コノ	2
吉浜村	菊地 幸助	9	越喜来村	見世 久兵衛	1	越喜来村	若林 権之助	
吉浜村	新沼 文吉	7	越喜来村	中野 治右衛門	2	越喜来村	田村 三六	2
吉浜村	三浦 長右衛門	3	越喜来村	東 兵吉	1	越喜来村	熊谷 松治郎	
吉浜村	三浦 末吉	5	越喜来村	大上 竹治		越喜来村	及川 八重蔵	
吉浜村	柏崎 歳三郎	11	越喜来村	富沢 市次郎		越喜来村	及川 トミ	2
吉浜村	荒川 甚蔵	2	越喜来村	川畑 兵蔵	5	越喜来村	黄川 サヨ	
吉浜村	柏崎 儀三郎	9	越喜来村	橋本 サワヘ	2	越喜来村	熊谷 久四郎	2
吉浜村	柏崎 紋三郎	11	越喜来村	及川 卯三郎	4	越喜来村	村上 ハリ	
吉浜村	相田 ユワ	2	越喜来村	西野 富作	1	越喜来村	境谷 ヤナ	
吉浜村	柏崎 安之助	4	越喜来村	下館 ソノ	2	越喜来村	里見 鶴太郎	
吉浜村	柏崎 常蔵	2	越喜来村	新沼 セン		越喜来村	嘉志 ツユ	1
吉浜村	柏崎 久太郎	5	越喜来村	遠野 トメ	2	越喜来村	里見 平七	4
吉浜村	柏崎 米蔵	3	越喜来村	新沼 千蔵	2	越喜来村	平田 留蔵	3
吉浜村	柏崎 留作	7	越喜来村	新沼 丞三郎	5	越喜来村	今野 長十郎	
吉浜村	木川田 丑蔵	2	越喜来村	遠野 初蔵	2	越喜来村	及川 フヨ	2
吉浜村	柏崎 菊之助	3	越喜来村	刈谷 丈作	1	越喜来村	平田 シナ	1
吉浜村	柏崎 セキ	5	越喜来村	新沼 リノ	1	越喜来村	平田 キクノ	
吉浜村	木川田 八百吉	5	越喜来村	門田 勝次郎	1	越喜来村	西村 ヤナ	2
吉浜村	柿崎 珍三		越喜来村	及川 甚作	3	越喜来村	清水 留吉	
吉浜村	岡崎 キタエ	3	越喜来村	岩城 兵左衛門	1	越喜来村	清水 朝治	1
吉浜村	新沼 ハツ	2	越喜来村	川畑 トヨ		越喜来村	今野 トメ	
吉浜村	磯崎 シワ	1	越喜来村	山下 庄之助	1	越喜来村	及川 富右衛門	2
吉浜村	岡崎 ハル	4	越喜来村	滝沢 ユリ	1	越喜来村	沢田 ツヨ	1
吉浜村	柏崎 マツノ		越喜来村	上野 芳吉		越喜来村	沢田 カメヨ	
吉浜村	渡辺 リキ	2	越喜来村	及川 コン	1	越喜来村	斉藤 ハルノ	
吉浜村	三浦 キノ		越喜来村	橋本 音次	1	越喜来村	及川 イチ	1
吉浜村	佐藤 陳蔵	1	越喜来村	門田 千蔵	6	越喜来村	橋本 ムメ	

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
越喜来村	小沢 養吉	2	末崎村	村上 菊治		末崎村	熊谷 桐三郎	5
越喜来村	小沢 トヨ	2	末崎村	近藤 忠助	7	末崎村	松岡 深松	3
越喜来村	及川 エイ		末崎村	村上 ツヘ		末崎村	渡辺 トク	2
越喜来村	及川 ムメ	2	末崎村	滝田 マキ	1	末崎村	渡部 鶴藏	3
越喜来村	及川 ハツエ	5	末崎村	佐々木 昇	4	末崎村	熊谷 万作	2
越喜来村	三浦 キクノ		末崎村	梅沢 佐吉	3	末崎村	松岡 清太郎	
越喜来村	川原 国次	2	末崎村	村上 勘次	8	末崎村	村上 コナ	1
越喜来村	川原 ヨシ	3	末崎村	高橋 清五郎	3	末崎村	佐竹 キン	
越喜来村	川原 留蔵	4	末崎村	高橋 源治	1	末崎村	村上 セツ	2
越喜来村	及川 富蔵	4	末崎村	新沼 エミ	1	末崎村	館本 ソノ	5
越喜来村	及川 喜一郎	3	末崎村	新沼 庄兵衛	5	末崎村	菅原 ウルヘ	
越喜来村	斉藤 万三郎	3	末崎村	高橋 儀之助	5	末崎村	久米 チヨノ	3
越喜来村	岡沢 コシ		末崎村	高橋 文次郎		末崎村	紀室 吉五郎	
越喜来村	江刺 太助		末崎村	村上 初太郎	4	末崎村	志田 フキ	
越喜来村	橋本 吉之助	1	末崎村	滝田 忠蔵	2	末崎村	後藤 ナミ	
越喜来村	角地 トマ		末崎村	滝田 留右衛門	2	末崎村	後藤 与十郎	
越喜来村	角地 治助	3	末崎村	滝田 カメヨ		末崎村	小松 シツ	1
越喜来村	江刺 ハナ	2	末崎村	滝田 ヤシ		末崎村	武田 シメ	
越喜来村	西村 千福	1	末崎村	村上 フク	2	末崎村	細川 タケ	1
越喜来村	新沼 権蔵	3	末崎村	新沼 善七	6	末崎村	細川 亀五郎	
越喜来村	掛川 寛治		末崎村	滝田 太之助	1	末崎村	大友 スモ	
越喜来村	柳本 松五郎	1	末崎村	村上 良蔵	4	末崎村	大友 三吉	
越喜来村	金野 伊作		末崎村	村上 ツルノ	2	末崎村	大友 川次郎	2
越喜来村	及川 マツ		末崎村	志田 トク		末崎村	大友 フミ	1
越喜来村	角地 シモ		末崎村	村上 長作	4	末崎村	大友 テン	
越喜来村	鎌沢 久六	1	末崎村	近藤 アキ	3	末崎村	小松 善三郎	
越喜来村	及川 四郎右衛門	4	末崎村	村上 辰次郎	3	末崎村	小松 シケ	4
越喜来村	及川 菊蔵	5	末崎村	滝田 庄吉	4	末崎村	木村 寅之助	2
越喜来村	古水 ヤナ		末崎村	近藤 ミオ	5	末崎村	尾形 リノ	4
越喜来村	及川 四郎作	2	末崎村	榎沢 寅之助	2	末崎村	尾形 リセ	2
越喜来村	熊谷 春治	3	末崎村	近藤 清平	2	末崎村	武田 吉郎兵衛	3
越喜来村	熊谷 弥之助	3	末崎村	滝田 芳兵衛	5	末崎村	村上 市之丞	
越喜来村	熊谷 仁右衛門		末崎村	岩脇 庄三郎	3	末崎村	村上 長三郎	2
越喜来村	熊谷 富治	4	末崎村	横沢 キク	1	末崎村	浜守 ハル	2
越喜来村	鈴木 リン	3	末崎村	横沢 三之助		末崎村	村上 サノ	4
越喜来村	及川 常之助	3	末崎村	村上 キク	2	末崎村	村上 キン	8
越喜来村	田中 大福	2	末崎村	近藤 ツル		末崎村	村上 リヘ	2
越喜来村	及川 ミトリ	3	末崎村	近藤 トル	3	末崎村	村上 林作	6
越喜来村	鈴木 ユキ	2	末崎村	村上 ヨシ	2	末崎村	浜守 シモ	3
越喜来村	鎌沢 仁蔵	4	末崎村	近藤 啓治		末崎村	大和田 オリ	1
越喜来村	及川 与吉	5	末崎村	村上 マツ	2	末崎村	大和田 作右衛門	6
越喜来村	及川 重治	7	末崎村	梅沢 竹蔵	4	末崎村	大和田 多惣次	4
越喜来村	鈴木 久米蔵		末崎村	近藤 モモ	2	末崎村	大和田 喜十郎	5
越喜来村	大津 ヨシノ		末崎村	近藤 卯左衛門		末崎村	大和田 徳三郎	5
越喜来村	水野 熊太郎	1	末崎村	近藤 清九郎	7	末崎村	及川 リン	1
越喜来村	世浦 トメ	1	末崎村	志田 富蔵	7	末崎村	浜守 シワ	2
越喜来村	葉沢 久米治郎		末崎村	近藤 善次郎	2	末崎村	村上 ナツ	
越喜来村	前田 源七		末崎村	熊谷 長吉	9	末崎村	大磯 フテ	2
越喜来村	前田 留蔵		末崎村	菊地 長右衛門	1	末崎村	熊谷 熊右衛門	1
越喜来村	古内 ツマ		末崎村	熊谷 エン	2	末崎村	大和田 シノ	1
越喜来村	古内 イロ	3	末崎村	熊谷 幸助	5	末崎村	大和田 完太郎	3
越喜来村	清水 市五郎	2	末崎村	熊谷 与蔵		末崎村	浜村 三十郎	8
越喜来村	古内 弥之助		末崎村	近藤 治四郎	3	末崎村	尾崎 シノ	1
末崎村	近藤 富造	2	末崎村	岩脇 太郎治	3	末崎村	後藤 吉郎次	7
末崎村	近藤 シノ	5	末崎村	近藤 ヨシ	1	末崎村	村上 徳三郎	3
末崎村	新沼 政治	1	末崎村	岩脇 佐太郎	5	末崎村	菅原 ミツ	1
末崎村	佐々木 綱治	3	末崎村	村上 トメ		末崎村	熊谷 久治郎	3
末崎村	佐々木 ワキ	1	末崎村	藤沢 トリ		末崎村	村上 キイ	7
末崎村	村上 卯右衛門	5	末崎村	熊谷 ワキ	1	末崎村	村上 力右衛門	2
末崎村	新沼 助十郎	2	末崎村	渡辺 フク	1	末崎村	鎌田 喜三郎	9

村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数	村名	氏名	外人数
末崎村	熊谷 吉五郎	6	末崎村	村上 フク		小友村	黄川田 嘉右門	3
末崎村	熊谷 福松	8	末崎村	尾形 ヨシイ		小友村	新藤 円蔵	6
末崎村	鎌田 値兵衛	4	末崎村	村上 シモ		小友村	新藤 治五平	1
末崎村	村上 与三郎	1	末崎村	大和田 リン		小友村	金野 キヨ	4
末崎村	熊谷 ヨシ	3	末崎村	山本 熊治		小友村	石川 ヒロ	1
末崎村	佐々木 十治郎	9	末崎村	山本 チトリ		小友村	村上 チリ	1
末崎村	熊谷 辰十郎	2	末崎村	熊谷 オリ		小友村	金藤 門蔵	8
末崎村	熊谷 甚兵衛	3	末崎村	尾崎 モモ		小友村	金沢 駒吉	2
末崎村	佐々木 権作	3	末崎村	浜村 トヨノ		小友村	熊谷 ツル	
末崎村	大磯 タマ	5	末崎村	滝田 エン		小友村	黄川田 ハル	
末崎村	熊谷 勝左郎	4	末崎村	小松 ウルヘ		小友村	黄川田 アキノ	
末崎村	熊谷 音吉	4	末崎村	鎌田 コキク		小友村	佐々木 アキノ	
末崎村	熊谷 松兵衛	7	末崎村	吉田 吉七郎		小友村	鈴木 甚吉	
末崎村	熊谷 喜伝松	6	末崎村	村上 サク		小友村	内館 桃吉	
末崎村	熊谷 松蔵	9	末崎村	後藤 フミヨ		小友村	岡田 イワ	1
末崎村	熊谷 辰次郎	4	末崎村	大和田 吉太郎		小友村	千葉 辰之助	2
末崎村	古座 権兵衛	2	末崎村	新沼 菊蔵		小友村	内館 サマ	1
末崎村	佐々木 トミ		末崎村	近藤 スワ		小友村	中井 イサキ	
末崎村	志田 幸蔵	2	小友村	戸羽 チヨ		小友村	千葉 カ子	
末崎村	志田 ツト	1	小友村	戸羽 与治右衛門	3	小友村	千葉 トメ	
末崎村	佐々木 徳四郎	2	小友村	戸羽 カン	3	高田村	佐々木 トク	
末崎村	鎌田 福三郎		小友村	戸羽 庄太郎	2	高田村	佐々木 ヤシ	3
末崎村	佐々木 ナツ		小友村	戸羽 千作	2	高田村	阿部 芳兵衛	1
末崎村	佐々木 民治郎		小友村	戸羽 テフ	4	高田村	和田 幸七	
末崎村	佐々木 アキ		小友村	斉藤 伊惣次	5	盛町	佐々木 シモ	
末崎村	佐々木 甚五郎	1	小友村	斉藤 ツル	2	立根村	千葉 清左衛門	
末崎村	鈴木 トミヘ		小友村	斉藤 治惣平	4	立根村	千葉 庄右衛門	
末崎村	村上 養作	2	小友村	斉藤 熊吉	3	立根村	岩城 寅蔵	
末崎村	村上 サク	5	小友村	黄川田 福蔵	8	立根村	姓不詳 ユミ	
末崎村	小松 ヨネ	2	小友村	戸羽 佐十郎	1	立根村	姓不詳 七五郎	
末崎村	村上 キク	3	小友村	戸羽 芳之助	4	立根村	千葉 福松	
末崎村	小松 福三郎	5	小友村	戸羽 トメ	3	高田町	九郎兵衛	
末崎村	小松 弥惣八	6	小友村	戸羽 安太郎	4	盛町	中村 征治	
末崎村	小松 鶴松	5	小友村	戸羽 サキ	2	日頃市村	新沼 讓右衛門	
末崎村	小松 真吉	3	小友村	戸羽 城治	2	日頃市村	三浦 三太郎	
末崎村	田畑 紋兵衛	5	小友村	及川 角治		日頃市村	佐々木 大治	
末崎村	田畑 ヨシ	4	小友村	及川 助三郎		猪川村	千葉 直広	
末崎村	田畑 栄三郎	8	小友村	及川 トミ	4	猪川村	佐々木 イク	
末崎村	村上 平吉	1	小友村	戸羽 サト	3	猪川村	田村 藤吉	
末崎村	村上 イセ		小友村	戸羽 芳村	3	猪川村	姓不詳 カナ	
末崎村	田山 フク	3	小友村	戸羽 ミツ	1	猪川村	姓不詳 竹治	
末崎村	小山 アキ	4	小友村	戸羽 利平	4	有住村	姓不詳 広吉	
末崎村	中島 トメ	4	小友村	戸羽 利三郎	6	有住村	佐々木 留松	
末崎村	中島 キノ	3	小友村	戸羽 彦四郎	8	日頃市村	上野 儀之助	
末崎村	新沼 サト		小友村	佐々木 勝吉	5	竹駒村	姓不詳 太郎兵衛	
末崎村	菅原 エサホ	1	小友村	佐々木 寅作	1	盛岡	小友ニテ溺死	
末崎村	紀室 チトリ		小友村	佐々木 三蔵	6		上田 貞政	2
末崎村	浅野 鶴之進		小友村	志田 忠作	3	稗貫郡人	小友村ニ寄留	
末崎村	滝田 ハルヨ		小友村	戸羽 駒太郎			山口 喜代松	1
末崎村	村上 実		小友村	戸羽 ヤリ	4	他県人	小友村ニ寄留	
末崎村	新沼 ヨシ		小友村	戸羽 イク	1		姫野 専太郎	
末崎村	菅原 芳蔵	4	小友村	戸羽 衛右門				
末崎村	浅野 竹治	4	小友村	戸羽 喜左衛門	3			
末崎村	菅原 善吉	3	小友村	戸羽 善三郎	3			
末崎村	村上 マツ		小友村	戸羽 イセ	3			
末崎村	菅原 福松		小友村	戸羽 重五郎	1			
末崎村	菅原 ヨシ	2	小友村	戸羽 ヤス	2			
末崎村	菅原 金兵衛	2	小友村	戸羽 ヨシノ	1			
末崎村	上部 ミヨノ		小友村	柴田 トヨノ				
末崎村	古沢 八右衛門	7	小友村	柴田 ハツ				

编者注:紙資料を入力して貰い、DB屋の性で集計したら『大船渡災害誌』と異なる結果がでた。山下氏も手集計して、違いを確認したが、162頁注の表は山下氏の検算から電子集計数値に置換させていただいた。